

第 10-14 回 (2016/6/ 21-7/5)	総合演習 北村由美准教授 (附属図書館)
<p>■ 第 10 回：6 月 21 日(火)</p> <p>場 所 : 学術情報メディアセンター南館 303 参加者 : 受講者 25 名 演習補助者 6 名 配布資料: 講義スライド / グループワーク課題 RW 登録 / キーワードマップ用紙 / 調査テーマ記入用紙 / グループ発表とレポートのポイント</p> <p>➤ 講義 (40 分) 「総合演習 グループ発表とレポートに向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総合演習の目的 これまでの授業や演習で学習した内容、技術を総動員してテーマを設定し、発表とレポート執筆を行うこと。 発表内容: 「21 世紀の重要な問題」 発表時間: 15 分、全員参加 発表構成: はじめに (定義・導入など) ・先行研究レビュー・考察・参考文献リスト ● グループ発表・レポートのポイント グループ発表のポイントは以下の通り <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連資料を十分網羅し、読み込んでいるか。 2. 関連資料のポイントを的確にとらえているか 3. 各グループならではの着眼点で先行研究を考察しているか <p>レポートを書くときのポイントは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. グループ発表の内容に沿って、自分の言葉で 2000 字にまとめる。 5. 引用と文献リストの書式をきちっとおさえる ● 引用、参照のルールとポイント 「引用」「参照」の意味 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見と他人の意見を区別するため、自分の意見や発表の根拠を明示する。 ・その論文を読んだ次の人に、研究内容を渡すために必要となる。 <p>ルールとポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定されたフォーマットで参考文献リストを作成する。 ・自分の文章と引用部分の主従関係を明らかにする ● 著作権とは 死後 50 年保護される知的財産権の一つ。 人間の思想・感情を表現したさまざまな「著作物」を対象とする。 著作権の有無にかかわらず、学術の世界では他人の文章やアイデアを参照する際には、ルールに基づいて明示しなければならない。 ● テーマ設定のためのブレインストーミングに向けて テーマ設定にはキーワードを選択していく必要がある。自分の興味あるキーワードを構造的に考えることで、適正な概念レベルの文献にたどり着ける。下位概念になるほど問題が細分化され文献は少なくなり、上位概念になるほど問題が大きくなり関連文献は多くなる。テーマを絞ったり、広げたり際に、下記のような各ツールを活用できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語化・構造化に役立つツール ND L サーチ / JST シソーラス / JST シソーラスマップ / Webcat Plus / 新書マップ <p>➤ 演習 (40 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ発表・本日の課題について説明 (5 分) 	

- グループワーク：発表テーマの設定（30分）
- RefWorks アカウント登録の案内（5分）

➤ 課題（宿題）

キーワードマップの作成、調査テーマに関する文献調査などの課題を課した。

■ 第 11 回：6 月 28 日(火)

場 所：学術情報メディアセンター南館 303

参加者：受講者 23 名 演習補助者 6 名

配布資料：講義スライド / 課題

➤ 講義（30分）

- RefWorks の使い方
 - ・ 文献管理ツールとは何か、ログインの仕方について
 - ・ 各種論文データベース（KULINE / CiNii Articles / 京大 Article Linker）から RefWorks に論文情報を取り込む
 - ・ フォルダ整理とレコード編集、コメント機能について
 - ・ RefWorks から出力、参考文献リストの作成
 - ・ RefShare を使って集積した文献リストを共有する
- RefWorks のアカウントについては、6 月 21 日(火)の講義の際に登録を行った。
- 学習支援サービス PandA（情報環境機構提供）を利用した課題提出、および作成資料の共有方法の解説。

➤ 演習（60分）

- グループワーク
 - ・ 教員と補助者、学習サポートデスクのスタッフが適宜サポートを行った。
- グループごとに発表計画を説明
 - ・ グループごとに発表計画を 1 分程度で説明した。
 - ・ 北村准教授から足りない視点や方向性についてフィードバックを得た。

➤ 課題（宿題）

RefWorks での文献管理、文献共有などについての課題を課した。

■ 第 12 回：7 月 5 日(火)

場 所：附属図書館 3 階 共同研究室 3・5、附属図書館 1 階ラーニング・コモンズ

参加者：受講者 23 名 演習補助者 6 名

配布資料：講義スライド（発表資料・最終レポートについて）

➤ 講義（5分）

- 発表資料・最終レポート・アンケートについて
 - ・ 提出方法や締切などの説明
 - ・ 発表日を決めるため、くじ引きを行った。

➤ 演習（60分）

- グループワーク
 - ・ 共同研究室 3・5、ラーニング・コモンズの 3 部屋に分かれて、教員と補助者が適宜サポートを行った。

■ 総合演習発表概要

- ・ 「21 世紀の重要な問題」に関してグループでテーマを設定し、先行研究について調査発表を行う。
- ・ 各班発表時間 15 分＋質疑応答 5 分で発表を行う。
- ・ 発表者は「自己振り返りシート」に記入し提出する。
- ・ 他の履修者は、各班の発表について「発表評価シート」に記入し提出する。
- ・ 「発表評価シート」は各回で回収し、第 14 回の最後に得点で 1 位と 2 位の班を発表する。

■ 第 13 回：7 月 12 日(火)

場 所：学術情報メディアセンター南館 303

参加者：受講者 24 名 演習補助者 6 名

配布資料：講義スライド（2、5、6、7 班）、発表評価シート、自己振り返りシート

14:50-15:05 2 班発表「21 世紀の重要な問題～過疎地域での医療問題～」

15:10-15:25 5 班発表「生物多様性保全への提言」

15:30-15:45 7 班発表「シンギュラリティとその影響についての定義差・認識差」

15:50-16:05 8 班発表「現代スポーツにおける薬物使用が社会に与える影響を問う」

■ 第 14 回：7 月 19 日(火)

場 所：学術情報メディアセンター南館 303

参加者：受講者 24 名 演習補助者 6 名

配布資料：発表スライド（1、3、4、8 班）、発表評価シート、自己振り返りシート

14:50-15:05 1 班発表「人工知能と労働」

15:10-15:25 3 班発表「フランス PACS 法から考える 21 世紀の日本の結婚制度」

15:35-15:50 4 班発表「南海トラフで想定される巨大地震に対する、政府の政策」

15:50-16:10 6 班発表「次世代エネルギーの可能性と選択」

16:10-16:15

- ・ すべての「発表評価シート」を集計し、各日の得点 1 位（7 班と 6 班）を発表した。
- ・ 記入された「発表評価シート」を、各班へ配布した。
- ・ 事務連絡（最終レポート、アンケート、半年後のフォローアップアンケート等）

（文責：山口 琴衣）

□2016 年度の主な変更点

- 授業会場について
 - ・ 第 10,11,13,14 回はメディアセンター303、第 12 回は附属図書館のラーニング・コモンズおよび共同研究室で行った。
- 発表について
 - ・ 第 10,11,13,14 回はメディアセンター303、第 12 回は附属図書館ラーニング・コモンズ、共同研究室 3、共同研究室 5 で行った。
 - ・ 昨年度までは「21 世紀の重要な課題について」という大テーマのもと、先行研究レビュー+新たな研究テーマの発案を課していたが、今年度は先行研究調査を主として行ってもらいようにし、発表内容も先行研究レビューと先行研究の考察までに留めるよう指示した。
 - ・ 先行研究調査が主ということを強調するため、レビュー論文を配布し、参照してもらった。
 - ・ 受講生が増えたため、昨年度は 20 分であった発表時間を 15 分とした。
 - ・ 公平を期すため、発表日は第 12 回授業時にくじで決めた。
 - ・ 昨年度はテーマ設定が難航した時のために、各班に「現代用語の基礎知識」を配布したが、テーマが偏る恐れがあるため今年度は配布しなかった。
 - ・ 発表振り返りシート（対自分）について、昨年度は A4 版片面に項目をたてて、記入してもらったが、書くのに時間がかかる受講生が多かったため、今年度は A5 版とした。
- 課題について
 - ・ 第 11 回課題について、昨年度は Refworks へのインポートに加え、所蔵情報の記入も課していたが、総合演習では Refworks へのインポートができるようになることが主眼であるため、今年度はインポートと要約の記入のみを課した。
 - ・ 発表スライドや最終レポートで参考文献の作成を課すにあたり、リストの順序に決まりがあることやスタイルに違いがあることなど、参考文献リストについてより詳しい情報を提供した。
 - ・ 参考文献リストに関して、RefWorks では日本人名は五十音順で並び替えができない、RefWorks の SIST02 スタイルでは、ウェブの URL やアクセス日時が表示されないなどの問題点について、授業中に注意し、手動で修正を行ってもらうように指示した。
- データベースのアクセス数増加について
 - ・ 昨年度は新聞 DB の同時アクセス数の増加を依頼しなかったが、今年度は受講生が増えたこともあり、同時アクセス数の増加を依頼した。

□ 感想・反省等

- 授業会場について
 - ・ メディアセンター303 はパソコンが横並びではないので、グループワークや発表を行いやすかった。
 - ・ 第 12 回のグループワーク時に附属図書館のラーニング・コモンズや共同研究室を使用した。パソコンを持っていない班でパソコンが必要な班があり、急遽講習会室を開放した。パソコンを持参するよう指示はしたが、附属図書館でグループワークを行う場合は、念のため何台かノートパソコンを用意しておく方がよい。
- 発表について
 - ・ 先行研究のレビューを主眼にした発表を行ってもらったつもりだったが、誰の意見なのかという点が明確でない発表が見受けられた。先行研究とは何かということについて、説明が十分ではなかったかもしれない。
 - ・ 今年度からレビュー論文を配布したが、ただ配るだけでは見ない受講生もいるので、来年度以降は論文の構造を分析するという課題を出し、発表では論文の中の「先行研究レビュー」の部分を行ってもらうということにすると、イメージしやすいかもしれない。

- ・ 先行研究において重視すべきこととして、独自の視点の重要性が強調されがちであるが、この授業では、独自の視点を持つために必要な先行研究の整理の重要性を強調するようにできればよい。
 - ・ テーマについて、受講生に自由に書かせて似たテーマを書いた人同士をグループにするという案がでた。似たような興味を持った人同士だと、話し合いは行いやすいが、新たな視点が生まれにくいという難点もあり、検討を要する。
 - ・ 文系のテーマだと先行研究の調査に苦勞するという意見が受講生から寄せられた。先行研究の質や量を考慮して、こちらからテーマを提示する方が取り組みやすい受講生もいるようである。ただ、自分の興味にあった内容を調査したい受講生もいるので、どちらでも選べるようにするのが最善と考えられる。
 - ・ 昨年度テーマ設定の参考として配布した「現代用語の基礎知識」を、今年度は配布しなかったが、特に問題はなく、代わりに授業中に紹介したツールを積極的に活用しているようだった。
 - ・ 発表評価シートに点数評価を記入してもらったが、受講生と補助者の評価がおおむね一致しており、重視すべきポイントが伝わっていることが分かった。
- グループワークについて
- ・ 発表チームの構成を 1 グループ 3 名としたことで、グループワークにおいて皆が意見を述べやすかったようだった。昨年度より受講者数が増えたため、グループ数も増えたが、30 名ぐらいまでなら発表時間を減らすなどの工夫で、1 グループ 3 名の構成を継続できるとよい。
 - ・ 発表日について、昨年度は補助者があらかじめ決めていたが、今年度は授業中にくじで決めた。公平であり、イベントとしても盛り上がるので、変更してよかった。
 - ・ 各班に配布したホワイトボード、A3 版白紙などが積極的に活用されていたので、来年度以降も配布できるとよい。あわせて、パソコンを持参していない班のために、ノートパソコンの手配も利用支援掛へ依頼しておく方がよい。
- 課題について
- ・ 来年度は配布した論文の構成を分析するという課題を出してはどうかという意見があった。論文構成のうち、先行研究の部分までを総合演習では行ってもらおうということを伝えると、分かりやすいかと思われる。
 - ・ 第 11 回課題は資料の要約と RefWorks へのインポートに絞り、所蔵情報等の記入は削ったが、他チームの課題ですでに取り扱っているなので、削っても問題なかった。
 - ・ 調査テーマに関する雑誌論文や新聞記事を検索する課題で、一般誌や週刊誌を回答しているケースがあった。一般誌と学術雑誌の違いについて、資料調査の入り口の授業時に説明されているが、総合演習でも文献の精査という観点を再度強調した方がよい。
 - ・ 班員がすべて同じ文献を検索しているケースがあった。幅広く文献を調査してもらおうという主旨からも好ましくないため、来年度以降は班員各自が図書、論文、新聞を探すということが明確になるように課題文の見直しが必要と思われる。
- RefWorks について
- ・ RefWorks の動作が最も安定しているということで、昨年度までは FireFox を使用するよう案内してきたが、今年度 IE で行っても特に問題はなかった。
- PandA について
- ・ PandA のリソースを受講者間の共有フォルダとして活用してもよいことを伝えたところ、8 班中 6 班で活用していたようである。課題提出以外でも積極的に活用してもらおうよう今後も案内できるとよい。
- アンケートについて
- ・ アンケートを最終レポートとあわせて必須提出としたが、最終レポートの提出者が発表者 24 名中 17 名だったため、受講生全員から回答を得ることはできなかった。
 - ・ アンケート回答者はすべて 1 回生であった。

- 平均値はそれぞれ理解度 4.94、有用度 5.71、難易度 5.41 と有用であった。1 回生の前期ということ考えると難易度がやや高かったようである。
- 有用だと思うツールについては、「CiNiiArticles」「RefWorks」「PandA」「新聞データベース」が多かった。
- 昨年度と比較すると、「PandA」を有用だと考える受講生が増加した。PandA を使って情報を共有する方法は非常に便利で、知ることができて良かったというコメントもあった。
- グループワークについて、「さまざまな意見が出るため、新たな考えを聞く機会がたくさんあり勉強になった」「作業を分担するので、上手くつながらないことが多い」「色々な意見を考慮にいれて議論したあと、結論をまとめることが難しい」「話し合いがよくできるほどに発表のクオリティも高まっていくため、いかに話し合いが大切かということがよく学べた」といった意見があり、グループワークの面白さや難しさを実感したようだった。
- 授業時間外にグループで話し合った時間について、「2 時間以下」が最も多く、用いた方法は「実際に会った」が最も多く、次いで「ライン」が多かった。
- 受講理由について、「今後の研究・学習に役立ちそうだから」「授業内容に興味があったから」「図書館の利用法を知りたかったから」が多かった。授業名に「大学図書館」という語を入れていることで、図書館に興味を持つ学生が受講するようである。
- 授業で特に良かった点について、「院生の TA や図書館員の補助者がいたこと」を挙げた受講生が最も多かった。今年度は 1 回生の受講が多く、また前期開講となったため、大学入学直後の 1 回生にとっては、サポート体制が重要であることが分かった。
- 総合演習の内容について「課題の量が多い」「準備の時間が足りなかった」という意見もあったが、「論文の調べ方や Refworks の使い方など実践で学ぶことができた。口頭だけで説明されるよりもより理解を深めることができた」「一年の前期のうちに、しっかり補助がいて、やり方がある程度教わったうえで経験を積めたのは本当によかった」など肯定的な意見も多く寄せられた。
- アンケート結果として、「有意義であったが、難易度が高かった」というのがおおよその総意であったので、来年度以降は主な受講生は大学入学直後の 1 回生ということを前提に、課題や授業構成を考えることが必要である。

(文責：小松原 記子)